

アニマート(音楽用語):『活潑な、生き生きとした』という意

### 病院短信

#### 『拝啓、日野原重明様』

二病棟 看護師長

船津 栄

去る七月十八日、日野原重明さんが百五歳の長寿で他界されました。日野原さんをご存じの方も多いと思いますが、日本で最も名の知れた医師であり医学博士、聖路加国際病院名誉院長、上智大学日本グリーンフケア研究所名誉所長、その他多くの肩書きを持ち、勲二等瑞宝章、文化勲章を受賞、日本ユニセフ協会の大使も務められた方です。しかし、こんな肩書きよりも現在の医療体制の礎を築いた方、といっても過言ではありません。

一九四〇年代に医師となり東京大空襲で多くの被災者の治療にあたり人間ドックの導入や「成人病」に代わる「生活習慣病」という言葉を提言しました。一九七〇年にはよど号ハイジャック事件の人質となりましたが無事生還し「この時ほど命の重さを実感した事はない」と機会がある度に話されてきました。一九九四年に東京大地震を想定して聖路加病院のあらゆるところに酸素パイプを張り巡らしましたが、奇しくも翌年に地下鉄サリン事件が発生。この準備のおかげで多くの患者さんの治療に対処できたとのこと。医師であり作家でもある海堂尊氏の映画「ジエネラルルージュの凱旋」で描かれるクライマックスシーン。何もなかった病院のあちこちの場所から、ストレッチャーや酸素管が出てきてあつという間に治療の場と化する様子はこれを表現したのではないかと個人的に思っています。

私は看護学校時代、学校の図書館で日野原さんの多くの著書に出会いました。大変感銘を受け、すぐに本屋に注文しましたが、その多くがすでに廃版となっていました。今でも大変残念に思っていますが、拝読出来た幸運には感謝しています。日野原さんには数々の名言があります。その中からいくつかご紹介します。

「**体は命の器である。常にきれいな水で満たしておきなさい。そして命は誰かの為に使いなさい。**」

医療人であれば身体は単純に生物学的なものですが、「命の器」という表現が素直に心に響きました。確かに人により器は色や形などいろいろで、決して健康で立派な器ばかりではありません。怪我や病気などで隙間が多くなれば命は抜けていってしまうでしょう。

当院の患者さんも器の形が認知症という部分では他の方と違っていていると思いますが、命をしっかりと満たし誰かの為に生きようとしている姿に変わりはありません。おしぼりたたみなどをお願いし「助かります。」と伝えると「そう言ってもらえると嬉しいわ」という言葉が返ってきます。私達もその言葉が何より嬉しいのです。最期まで「あなたが居て嬉しい」というケアを目指していきたいと思っています。

また、何にでも興味を持ち前向きな日野原さんらしい言葉があります。

「**年をとることそれ自体が未知の世界に一步ずつ足を踏み入れていく事。こんな楽しい冒険はない。**」

ひよつとすると亡くなるその最期の一呼吸までも楽しみ、もしかしてその先も…?

「いつまでも現役！」そんな日野原さんの「生き方上手」に敬愛と感謝を込めて合掌です。



### 看護のひろば



3病棟 看護師

青木 和代

「さしすせそ」というと何を思い浮かべるでしょうか？お料理の「さしすせそ」が浮かんだ方が多いのではないのでしょうか。最近若い世代ではコミュニケーションの「さしすせそ」が使われているようです。㊦さすがですね ㊧知らなかった ㊨すごーい ㊩センスいい ㊪そうなんだ との事です。これを使うと相手が気分よくなり会話が円滑になるそうです。仕事での心得としての「さしすせそ」を私なりに考えてみました。㊦最後まで気を緩めない ㊧私語を慎む ㊨素早い対応・判断・行動 ㊩責任をもって仕事する ㊪相談する どうでしょう？

ちなみに私が患者さんとの関りで使う「さしすせそ」は、

- ㊦ さぁラジオ体操をしましょう
- ㊧ 食事です、良く噛んで食べて下さい
- ㊨ 座ってばかりだと疲れますよね、プッシュアップしましょう
- ㊩ 「せーの」で立ち上がりますよ
- ㊪ そろそろ就寝の時間です、ゆっくり眠って下さい です。



### いきいき介護



1病棟 介護福祉士

加藤 千亜希

早いもので東日本大震災から6年半が経ちました。震災当日は夜勤だった私は、停電でエレベータは停止、患者さん用トイレの水も流れない、設置したポータブルトイレ用に1階から水を汲んで来る、食事は厨房からリレーで各病棟へ配る等…戸惑いながら仕事をした覚えがあります。近頃では地震の報道も多くなり首都直下地震もにわかに現実味を帯びてきましたし、台風の被害も年々激しく、8月初旬の迷走台風による各地の被害も記憶に新しいところ。9月1日は防災の日です。我が家にも食料やヘルメットなどの防災用品を備蓄してありますが、賞味期限切れの物は無いか電池は大丈夫かなど確認してみたいと思います。皆さんも防災の日を機に、今一度災害時の対策を見直してみたいはいかがでしょうか。



### 事務屋の独り言

常務理事 事務局長

瓦井 洋

#### 『終末期医療2』

終末期医療については、医師をはじめ医療関係者の間でもいろいろな意見があることは前号でも述べました。そんな終末期医療、実に不思議なのですが、最も高い関心を持っているのが医療関係者ではなく厚労省だったなんて言ったら皆さんは信じているでしょうか。こんな話、ジョークにもなりませんよね。近年、際限なく膨れ上がっていく国民医療費。その一翼を担っているのが終末期医療だと言われていますから、厚労省も無関心ではいられません。それに大命題となっている国民医療費の削減からすれば、病院での終末期の医療費はかなり頭の痛い問題のはずです。

それでも泣く子も黙る厚労省でさえ、終末期医療にはなかなか手を出すことが出来ません。ここでも前号で書きました『生命の尊厳』が顔を出すからです。日本人は本当にこの言葉に弱いんですね。

という事で、遅ればせながら厚労省も、今秋から自治体や病院などと患者の意思を共有する仕組み作りを乗り出すそうです。つまり自宅でも最期を迎えたい？と考える「**終末期の患者の意思に沿った医療を提供**」するために、「延命治療を望むかどうか」などという情報を救急医や在宅医らの間で共有する方法などを検討するという事らしいのです。

これは厚労省の二〇一五年度の統計ですが、**自宅で死亡した人の割合は十二・七%だったのに対し病院は七十四・六%だった**とか。この数字が示すように、確かに病院での終末期医療は、超高齢化社会に突入して以来、厚労省の目の上のたん瘤なのは良く分かります。しかし、病院で亡くなるにはそれなりの理由がある筈です。以下は私見ですが、

昭和から平成へ近代国家を目指したこの国は、現在、好むと好まざるとに拘わらず超高齢化と同時に核家族化もどんどん進んでいます。と同時に大都会一極集中型の人口形成になり、これがこの国の社会現象ともなっています。そんな時代での在宅医療や在宅での看取り。これを強力に推進している厚労省。私は在宅の医療や在宅での看取りが一〜二日で終わるならまだしも、これが数週間、数か月、数年にわたった場合のご家族の疲労や心労は計り知れないものだと十分承知しています。特に認知症患者においてはなおさらです。厚労省が進める在宅での医療と看取り。私にはどうにも無理に思えてなりません。とはいえ、**医療において、しかも終末期においては、延命治療の在り方など患者や家族の意思がより尊重されるべき**、という厚労省の考え方には賛成します。

もともと厚労省の本音は、病院で行われている終末期医療には、患者本人や**家族の意思に必ずしも沿わない医療が行われている実態がある**。これが医療費を押し上げている一因でもある。だから…というのが本音らしいのです。

いざれにしても**終末期医療の在り方については、患者や家族が医師らと十分話し合い、納得したうえで本人が決めることが重要なこと**は言うまでもありません。

もちろんそんな患者の相談に、適切に対応できる医師や看護師の養成も大事ですけれど…



# ～お誕生日会～



100点めがけて・・・  
せーの、えいっ！  
「やったー」「惜しいー」  
皆さん本気です！！

腕の力はどれくらい？  
ボール飛ばしゲーム

## せーの、アタック！ ビーチバレーゲーム

ポンっポンっ！  
そこにはこの夏一番  
熱い戦いが！  
最後まで絶対に諦め  
ません☆



## みんなでパタパタ 紙風船送りゲーム

よーいドンっ！  
みんなで扇いで扇い  
でー！  
紙風船はあっちこっ  
ちに飛びながら無事  
ゴールへ♪

## 作業療法室だより

作業療法士

栗田 歩

「夏はいったいどこへ行ってしまったの…？」と空に問いかけたくなるほどに、ジメジメと梅雨のようなお天気が続きましたね。

夏らしさがいまいち感じられない8月ではありましたが、そんな中ワイワイと夏を感じる会が開催されました。それは『祝\*スイカ収穫！皆で美味しく味わいましょう！』の会です。これまで畑では茄子やトマト・さつまいもにじゃがいも…と色々な野菜を作ってきましたが、今年初めてスイカの植え付けに挑戦したのです。「スイカは難しそうだから…」と少し弱気だった私たちでしたが、なんとスイカはスクスクと育ち、大きく立派な実をつけてくれました。

作業療法室にて皆さんに御披露目すると「わあ、すごいね！」「あの小さな畑でこんなに大きなのが獲れたの？」と大変驚かれています。食べる前にまずお一人ずつスイカを持ってもらい、スイカの重さを当ててみよう選手権を開催。「うーん、これはかなり重たいぞ」「重くて持ち上がらないね」「中身がしっかりつまってそう」などと大盛り上がり。正解はなんと6kg！見事ピタリ賞の方が、お二人いらっしゃいました。

肝心のお味はというと…皆さんより大絶賛をいただきました。しきりに言葉で感動を伝えて下さる方・黙々と頬張りその食べっぷりで感動を伝えて下さる方など様々にその美味しさを表現してくださいました。夏の恒例行事になりそうです。



その様子を  
どうぞ



## 園芸活動



## スタッフ紹介



1病棟 看護師  
おさわ やすこ  
小澤 泰子  
星座：やぎ座  
血液型：A型  
好きな食べ物：果実



私には高1の息子と中1の娘がいますが、子供達の毎日の学校と部活で忙しく、大好きな旅行や山登りが出来なくなっています。そこで今では日帰り出来る山に登り温泉に入って帰るのが、私の楽しみの一つになっています。私の将来の夢は百名山を目指しながら全国を旅していったらいいなと思っています。そのためにも日々の健康に気を付けて、元気に過ごしていけるよう頑張っていきたいです。



◆ 誕生日会&敬老会 14:00～  
各病棟デイルームにて  
1病棟：22日(金)  
2病棟：19日(火)  
3病棟：14日(木)

【9月の予定】



### ＜秋祭りのお知らせ＞

日時：10月21日(土) 13:00～(予備日24日(火))  
場所：当院前庭

当日は職員手作りの焼きそば・たこ焼き・綿菓子・お汁粉などの模擬店や、患者さん・病棟スタッフによるイベントもごさいます。どうぞ、ご家族の皆様も患者さんと一緒にご参加頂き、楽しいひと時をお過ごし下さい。

